教育現場のデジタル化 これからの学びへ

黒板に、電子黒板が加わる。
提出は紙でもオンラインでも。
学びの風景は、少しずつ変わっている。

いまの授業を、のぞいてみよう

みんなで聞く。自分で調べる。考えを共有する。

タブレット端末や電子黒板など、ICT機器の活用が進む学校教育。黒板とノートを中心とした学びにデジタルの力が加わり、授業の進め方や子どもたちの学び方にも変化が生まれています。

1 見て理解を深める

図形や資料を大きな画面に映し出し、視覚的にとらえながら学習。言葉だけでは伝わりにくい内容も、具体的にイメージしやすくなります。



2 考えを共有し、学びを深める

それぞれの考えを画面上で共有することで、自分とは異なる視点に触れ、考えを深めるきっかけが生まれます。



3 子どもたちの理解に応じた指導

理解が進んだ人は次の問題に挑戦し、つまずいている人には先生が個別にサポート。一人ひとりの理解度に応じた学びを支えます。



端末の使い方やオンライン提出の方法は、学校・教科によって異なります。



利府西中学校2学年 数学担当
研究主任 遠藤（えんどう） 達也（たつや） 先生

先生が語る「デジタルと紙」で育む、自ら学ぶ力

ICTの活用により、授業の進め方は大きく変わってきています。以前は、先生が黒板を使って説明し、全員が同じペースで学習することが中心でした。

現在は、タブレット等を活用し、一人ひとりの理解度に応じた授業を行っています。例えば学習内容に応じて、生徒が自分の理解度に合わせて学習を進める「自由進度学習」を取り入れています。理解が進んだ生徒は次の問題に挑戦し、つまずいている生徒には先生が個別にサポートします。また、タブレットで考えをまとめ、友達と意見を共有することで、自分の考えを深める機会も増えています。

一方で、計算など紙に書いて考えることが適した学習もあり、ICTと紙の使い分けも大切です。

ICTは授業を便利にする道具にとどまらず、生徒一人ひとりの可能性を広げ、自ら学ぶ力を育むための手段として活用されています。

学校に広がるデジタル活用
-「これまで」と「いま」-



ICT機器の導入が進み毎日の授業で無理なく、効果的に使える環境づくりが進んでいます

令和2年度から児童・生徒タブレット端末普及率 100%

これまでのノートと教科書を中心とした学習にデジタルツールが加わることで、子どもたちの学習環境はどのように変化してきたのでしょうか。小・中学校におけるデジタル教育の歩みと、現在の取り組みについてご紹介します。

タブレットを大切に
児童生徒に配布しているタブレットには、リーフちゃんのステッカーを貼り、大切に使うよう呼び掛けています。

●ロイロノート・スクール



考えを「見える化」する
デジタル上のカードに文字や写真などを書き込み、自分の考えをまとめることができます。

共有し、学びを深める
先生に提出したり、クラスメイト同士で送り合って意見を共有することで、お互いの考えを比べながら深め合うことで、新たな気づきにつながります。

●AIドリル



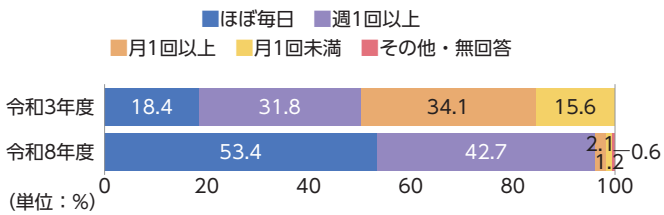
一人ひとりの理解に合わせた問題
子どもたちの傾向をリアルタイムで分析し、つまずいているポイントに合わせて自動で出題されます。

自分のペースで苦手を克服
学校の授業だけでなく、家庭学習等でも自分のペースに合わせて学習に取り組むことができます。

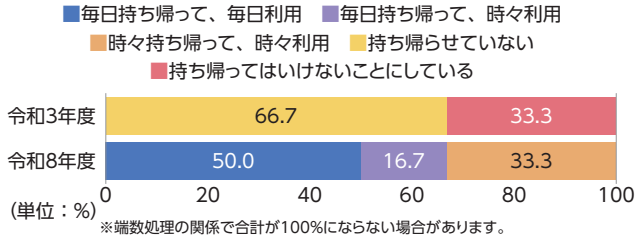
小学校・児童の「これまで」と「いま」

※小学校6年生対象　令和3年度・8年度 全国学力・学習状況調査抜粋

5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか



児童に配備されたPC・タブレットなどの端末をどの程度家庭で利用できるようにしていますか

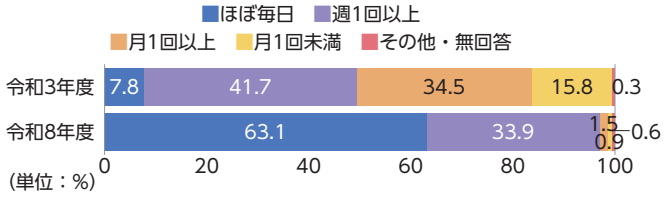


※端数処理の関係で合計が100%にならない場合があります。

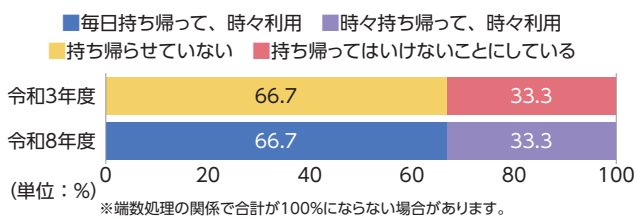
中学校・生徒の「これまで」と「いま」

※中学校3年生対象

1,2年生の時に受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか



生徒に配備されたPC・タブレットなどの端末をどの程度家庭で利用できるようにしていますか



※端数処理の関係で合計が100%にならない場合があります。

学力調査の結果を、地域みんなで子どもを育むきっかけに



全国学力・学習状況調査の結果公表は、単なる順位付けや学校ごとの比較のためではありません。
子どもたちの学びや生活の実態を地域みんなで共有し、共に教育について考えていくことが最大の目的です。
子どもの学力や健やかな成長には、学校での勉強だけでなく、家庭での生活習慣や地域の方々のあたたかい関わりが欠かせません。
調査から見えた傾向を共有することで、家庭・地域・学校が同じ目線に立ち、子ども一人ひとりを地域全体で支え育てていく「きっかけ」として活用していきます。

これからの学びへ

大切なのは、デジタルか紙かではなく、子どもたちの学びにとって何が最適かを選ぶこと。

教育のデジタル化は、特別なことではありません。
子どもたち一人ひとりの学びを深め、
未来を生きる力を育てるために、
デジタルを「学びの質を高める道具」として使います。



好きな教科は社会です



利府西中学校2学年
齋藤（さいとう） 愛子（あこ） さん

タブレット端末を使うと、自分の考えを発表したり、友達と共有したりするのが簡単になります。自分で書くときは紙のほうが好きですが、色分けして見やすくまとめたり、みんなに伝えたりするときは、タブレット端末のほうが使いやすいです。紙とタブレットそれぞれの良さがあると思います。

好きな教科は体育です



青山小学校3学年
豊永（とよなが） 楓太（ふうた） さん

自主学習などで調べ物をするときにタブレット端末を使います。タブレット端末を使って今後やってみたいことはGoogle mapを使って外国のことを調べてみることです。

好きな教科は音楽です



青山小学校3学年
佐々木（ささき） 奏実（かなみ） さん

タブレット端末や電子黒板を使うと授業が分かりやすいです。タブレット端末は持ち帰って宿題などで使う時もあります。紙の教科書だけではなく、デジタル教科書も使ってみたいです。

学びに生かす、タブレットとの付き合い方



青山小学校3学年 担任
情報主任 星川（ほしかわ） 志侑（しゅう） 先生

授業では、デジタル教科書やロイロノートを活用し、子どもたちの考えを画面上で共有したり、比べたりしています。また、AI型教材では、一人ひとりの解答状況に応じた問題に取り組んでいます。

一方で、学習に関係のない動画を見てしまうなど、インターネット上のトラブルへの対応も課題となっています。学校では年度初めに利用ルールを定め、毎年見直しを行っています。

今後もタブレット端末を学習に役立てるための使い方や、気を付けたいことを子どもたちに伝えていきたいと考えています。









利府町教育長
竹内（たけうち） 新（あらた）

教育長から地域・保護者の皆様へ

利府町の小・中学校では令和2年度から児童生徒1人1台端末を活用した教育環境により、分かりやすく、学びやすい授業づくりを進めてきました。令和8年度には全ての普通教室に電子黒板も整備されました。

今年度末に改訂される次の学習指導要領では、デジタル化重視の学びが一層強まる方向性が示されています。また、AIについても学校現場において避けてとおることのできないテーマとなっています。特に、外国語科に関しては、学習にAIの活用が見込まれる一方、今の学習指導要領においてその活用が位置付けられていないことが学習の量や質の格差につながると、見直しの中で懸念されています。もちろん、デジタル化やAIは万能ではありませんから、AIの示した回答をそのまま正解としてではなく、批判的に捉えるといった情報リテラシーについても育てていきます。

地域・保護者の皆様には、こうした国全体の流れについてご理解いただくとともに、ぜひ一度、学校で今どきの授業スタイルをご覧いただければと思います。